開講年度	令和８年度	開講課程	博士前期課程
授業名	器官病態外科学特別演習		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	１～２年次
必修・選択の別	選択	単位	２単位
対象学生	ー	使用言語	日本語
キーワード	（脳神経外科学）脳卒中、脳腫瘍 （整形外科学）運動器加齢変性疾患、疫学研究 （脊椎脊髄病学）脊椎脊髄手術(Spine and spinal cord surgery), 低侵襲脊椎外科手術(minimally invasive spine surgery), 骨粗鬆症性椎体骨折(osteoporotic vertebral fracture) （視覚病態眼科学）眼組織創傷治癒 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）聴覚、平衡覚、嗅覚・味覚、嚥下機能、頭頸部腫瘍、感染症		
担当教員 （下線：科目責任者）	医	（脳神経外科学）教授　中尾直之、准教授　深井順也、准教授　北山真理、講師　八子理恵、講師　中井康雄、講師　佐々木貴浩 （整形外科学）教授　山田　宏、准教授　岩﨑　博、准教授　筒井俊二、准教授　髙見正成、講師　寺口真年 （脊椎脊髄病学）教授　中川幸洋 （視覚病態眼科学）教授　雑賀司珠也、教授　岡田由香、准教授　住岡孝吉、准教授　小門正英、准教授　田中才一 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）教授　保富宗城、准教授　玉川俊次、准教授　河野正充	
	薬		
授業の概要	脳神経外科学、整形外科学、脊椎脊髄病学、視覚病態眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、外科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ		
到達目標	（脳神経外科学） 脳神経外科学の主要分野である脳腫瘍や脳卒中における専門的な知見を修得する。最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を修得する。 （整形外科学） 運動器加齢変性疾患における疫学研究の重要性について理解する。 （脊椎脊髄病学） 脊椎脊髄病に関する診断、治療計画に基づく低侵襲外科的治療の適切な選択、現在の手術手技の評価と新たな手技の開発に関する検討を行うことができる。 （視覚病態眼科学） 基礎・臨床研究の手法について学び、これらの実践能力を修得する。 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学） 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の疾患の病態を理解し、感覚・機能・頭頸部腫瘍に関する基礎・臨床研究に必要な知識と技術を修得する。		

授業計画	（脳神経外科学） 脳神経外科学における主要テーマである脳腫瘍や脳卒中について文献を読み、専門的知識及び基礎・臨床研究の手法について学ぶとともに、臨床知識・技術を修得する。またディスカッションを行うことにより、自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。（中尾直之／深井順也／北山真理／八子理恵／中井康雄／佐々木貴浩） （整形外科学） 運動器加齢変性疾患の疫学的調査研究に関する概説的な講義を行うとともに、最新の文献を読み、教員と議論することにより、運動器加齢変性疾患に関する理解を深める。 ・運動器加齢変性疾患の疫学研究の最近の動向（山田　宏） ・疫学研究の実態（岩﨑　博） ・運動器加齢変性と疼痛（筒井俊二） ・運動器加齢変性と身体機能（髙見正成） （山田　宏／岩﨑　博／筒井俊二／髙見正成／寺口真年） （脊椎脊髄病学） 脊椎脊髄疾患に対する新たな低侵襲治療についてその臨床的意義の検証のため、画像の経過及び臨床症状の経過及び評価を行う。（中川幸洋） （視覚病態眼科学） 眼組織創傷治癒に関する文献から専門的知識及び基礎・臨床研究の手法を学び、これらの実践能力を修得する。また指導層との討論を介して、主体的に考察する能力や課題発見力を養うとともに、創傷治癒の評価等における実験結果の解釈やまとめ方について指導する。（雑賀司珠也／岡田由香／住岡孝吉／小門正英／田中才一） （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学） １．聴覚（河野正充）、嗅覚・味覚（保富宗城） 聴覚・人工内耳の最新情報と聴覚評価法、嗅覚・味覚の機序と嗅覚障害動物モデルの作成及び嗅覚行動検査法について解説する。 ２．嚥下機能（玉川俊次） 嚥下機序の解説と評価法、嚥下障害の評価法と嚥下改善手術について解説する。 ３．頭頸部癌・甲状腺癌（玉川俊次） 頭頸部癌におけるパピローマウイルス・EBウイルスによる発癌機序と癌転移機序について解説する。 ４．耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症（保富宗城） 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症の原因微生物と難治化機序、耳鼻咽喉科頭頸部外科領域感染症に対する抗菌薬適正使用について解説する。 （保富宗城／玉川俊次／河野正充）
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の５段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書	（脳神経外科学）　特に指定しない。 （整形外科学）　特に指定しない。 （脊椎脊髄病学） 【教科書】「標準整形外科学　第14版」著者：井樋栄二 出版社：医学書院 （視覚病態眼科学）　特に指定しない。 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学） 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】「新耳鼻咽喉科学」著者：切替一郎 監修・編集：野村恭也、加我君孝、出版社：南山堂 英文誌「Laryngoscope」　出版社：Wiley Online Library